

Comfort

Information Systems

Ecology

Reliable

Automotive Electronics and TDK

Self-driving Cars

Safe

118期 株主通信 証券コード:6762

TDK Today

Vol.53

2013年4月1日 ▶
2014年3月31日

特集

ますます進化する 自動車とTDK

株主の皆様へ

いよいよ次のステージへ。

重点事業への経営資源の集中で、
確かな成長とバランスのとれた
利益構造の確立を実現して
まいります。



代表取締役社長

上 釜 健 夫

2014年3月期の業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2014年3月31日に終了しました2014年3月期（2013年4月1日から2014年3月31日まで）の連結業績についてご報告申し上げます。

当期におけるエレクトロニクス分野においては、自動車や通信機器、産業機器などの各市場が世界的に拡大し、電子部品の需要も堅調に推移した結果、当社グループの業績は増収増益となりました。特に、連結売上高は過去最高を記録しました。

2014年3月期 連結業績概要

売上高	9,845億円（前期比 17.0% 増） ※年間での過去最高売上
営業利益	366億円（同 65.6% 増）
当期純利益	163億円（－）

※当期における対米ドル及びユーロの期中平均為替レートは、100円26銭及び134円42銭と前期に比べ対米ドルで20.8%、対ユーロで25.6%のそれぞれ円安。

<2014年3月期決算のポイント>

事業分野別概況は、次のとおりでした。

● 受動部品事業

売上高 4,717億円（前期比 24.3% 増）

営業利益 154億円（前期は111億円の営業損失）

・セラミックコンデンサ：前期に実施した構造改革により、第1四半期から黒字が定着し、大幅に収益力が回復しました。特に、自動車市場向け販売が好調でした。

・アルミ電解コンデンサ・フィルムコンデンサ：産業機器市場向け受注が回復し、さらに自動車市場向け販売が好調だったことで、前期比増収増益となりました。

・インダクティブデバイス：自動車市場向け販売が好調だったことに加え、品種構成の良化により、前期比で大幅な増益となりました。

・高周波部品：スマートフォン、タブレット端末向けの販売が増加し、また、生産性の改善等により、前期比で赤字が縮小しました。

・圧電材料部品・回路保護部品：自動車向け部品及びカメラモジュール向けVCMの販売増加により、前期比で増収増益となりました。（注）カメラモジュール向けVCM：高速オートフォーカスアクチュエータ

● 磁気応用製品事業

売上高 3,643億円（前期比 7.8% 増）

営業利益 281億円（同 24.3% 減）

・記録デバイス（HDD用ヘッド）：タイ洪水特需のあった前期より大幅に出荷数量が減少しましたが、生産性改善効果や品種構成の良化により営業利益は微減にとどまりました。

・マグネット：レアアース価格変動による売価下落、海外拠点集約による一時費用等により、前期比で減収減益となりました。

・電源：産業機器市場向けの販売が回復し、収益性も前期比で改善しました。

● フィルム応用製品

売上高 1,293億円（前期比 25.7% 増）

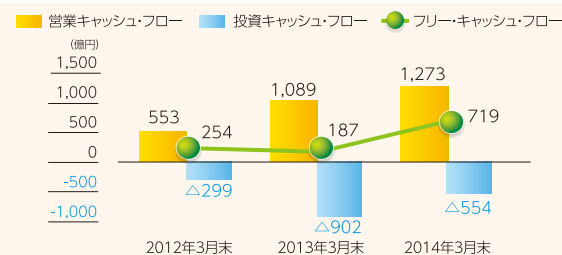
営業利益 134億円（同 4.7% 増）

・エナジーデバイス（二次電池）：スマートフォン、タブレット端末向けの販売が好調に推移し、新規顧客へのビジネス拡大も寄与し、前期比で大幅な増収増益となりました。

★業績トピックス

フリー・キャッシュ・フローが改善

企業が稼いだお金（営業キャッシュ・フロー）から、必要な投資を行った金額（投資キャッシュ・フロー）を差し引き、残ったお金を表す「フリー・キャッシュ・フロー」が前期の+187億円から+719億円へと大幅に改善しました。



※市場分野別の概況につきましては、3ページに記載しておりますのでご覧ください。

2015年3月期の取り組みについて

当社グループは、厳しい競争環境を勝ち抜くため、ここ数年、事業ポートフォリオの見直しや、生産拠点の最適化といった構造改革を実施してまいりました。そして、これらに一定の目途がついたことから、大規模な構造改革は終了し、いよいよ成長ステージへと舵をきってまいります。2015年3月期におけるキーワードは「重点3市場、重点5事業への注力」です。

重点3市場と重点5事業



(注) ICT: Information and Communication Technology (情報通信技術)

これら重点市場への対応強化にあたり、上記の5事業に経営資源を集中することで、成長を確かなものにするとともに、各セグメントで収益をあげられるバランスのとれた利益構造に転換してまいります。各市場における主な戦略は、次のとおりです。

● 自動車市場

自動車市場向け販売比率を2014年3月期の17%から、早期に20%に引き上げることを目指します。具体的には環境自動車用パワートレイン系(EV/HEV/PHEV)部品の強化、HDD用ヘッド技術を応用した車載向けセンサを市場に投入します。特にHDD用ヘッドのTMR技術を活用したセンサは、中長期的に大きな成長が期待できます。(注) TMR: トンネル磁気抵抗

● ICT市場

スマートフォン、タブレット端末市場は引き続き二桁成長が見込まれ、使用される電子部品も増加することが予想されます。加えて注力したいのが、技術革新による当社のビジネスチャンスの拡

大です。カメラモジュールの高機能化によるVCM、OISの需要の増加とリチウムイオンポリマー電池の需要の増加が期待されます。また、中国のモバイル市場で期待されるSAWフィルタ、BAWフィルタの需要拡大にも確実に対応していきます。

(注) OIS: 手振れ補正アクチュエータ

● 産業機器・エネルギー市場

HEMS (家庭内エネルギー管理システム) 市場の成長に対応し、当社の強みである磁性技術を活用したパワーマネジメント関連部品の開発と拡販に力を入れてまいります。また、産業エネルギー分野では定置型二次電池、インバータ用パワー部品、双方向DC-DCコンバータ、風力発電用金属磁石といった製品に注力してまいります。

<業績と配当の見通しについて>

これらの取り組みにより、2015年3月期は、当社グループとして初めての連結売上高1兆円の大台を超える計画としております。売上拡大に加え、これまでに実施してきた構造改革の効果の発現等により、利益水準も高めてまいります。これらの結果、前期に続き、増収増益を目指す計画としております。また、株主還元における重要な手段である配当につきましても、年間ベースで増配を予定しております。

2015年3月期の連結業績予想及び1株当たり配当金見通し

売上高	1兆500億円 (当期比 6.7%増)
営業利益	570億円 (同 55.7%増)
当期純利益	340億円 (同 108.6%増)

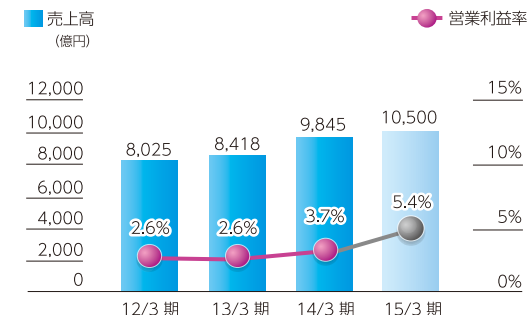
※通期の平均為替レートは対米ドル100円、対ユーロ135円を想定。(2014年4月28日時点)

中間配当	40円 (当期 30円)
期末配当	40円 (同 40円)
年間配当	80円 (同 70円)

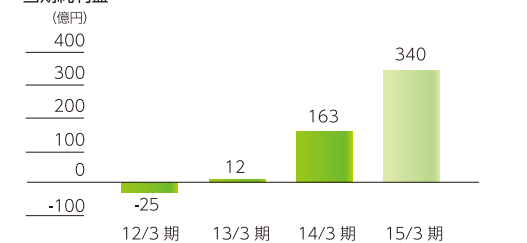
株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 上釜 健宏

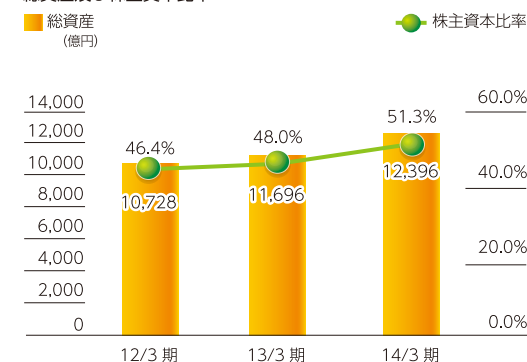
売上高及び営業利益率



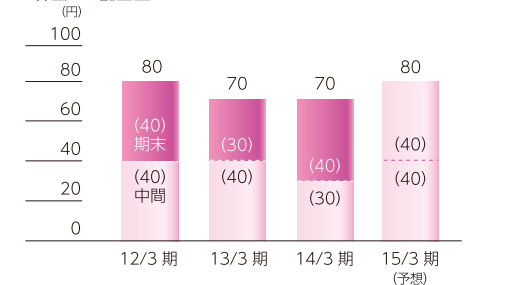
当期純利益



総資産及び株主資本比率



1株当たり配当金



(注) 2014年3月期より非継続事業となった事業について、過年度の数値を一部組替えております。予想は2014年4月28日現在。

市場分野別売上の状況 (2014年3月期)

市場分野別売上高と構成比 (2014年3月期)



HDD用
磁気ヘッド



リチウムイオンポリマー電池



アルミ電解コンデンサ



電源

世界のパソコンとハードディスクドライブ(HDD)の生産は、前期に比べて減少したものの、タブレット端末の生産は世界の需要拡大に牽引されて増加しました。当社グループの販売は、高周波部品とエナジーデバイス(二次電池)が大幅に増加しました。その結果、情報家電及び情報家電(HDD用ヘッド及びサスペンション)分野の売上は、前期比で15.0%増となりました。

設備投資が回復基調にあり、世界の産業機器市場は前期に比べて市場環境が改善しました。こうした状況の中、当社グループの販売も、アルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、電源が増加しました。その結果、産業機器及びその他分野の売上は、前期比で15.5%増となりました。

■ 情報家電及び
■ 情報家電
(HDD用ヘッド及び
サスペンション) 分野

4,378億円
44.5%

■ 産業機器及び
■ その他分野

1,945億円
19.8%

9,845億円

■ 自動車分野

1,707億円
17.3%

■ 通信機器
■ 分野

1,814億円
18.4%

米国の需要拡大に伴い、世界の自動車市場全体の生産は前期と比べて増加しました。当社グループの販売は、マグネットが減少したものの、圧電材料部品・回路保護部品、セラミックコンデンサ、アルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、センサ及びインダクティブデバイスが増加しました。その結果、自動車分野の売上は、前期比で19.6%増となりました。

新型端末の市場投入などにより世界のスマートフォンの生産は大幅に伸びました。当社グループの販売も、高周波部品、圧電材料部品・回路保護部品が増加し、特に、エナジーデバイス(二次電池)が大幅に増加しました。その結果、通信機器分野の売上は、前期比で20.8%増となりました。



セラミックコンデンサ



インダクティブデバイス



SAWフィルタ/高周波モジュール



チップバリスタ
(回路保護部品)

市場分野別売上高推移 (2010年3月期～2014年3月期)

自動車分野

(ガソリン車・ディーゼル車、ハイブリッド車、電気自動車向けなど)



通信機器分野

(スマートフォン、携帯電話向けなど)



産業機器及びその他分野

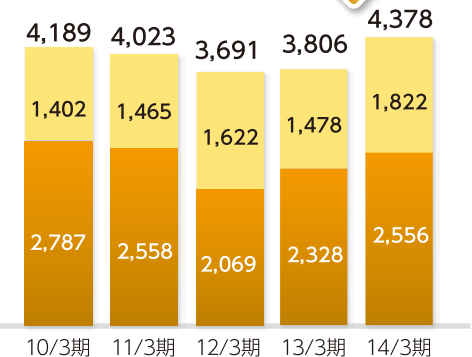
(半導体製造装置、医療機器、鉄道関連機器向けなど)



情報家電及び情報家電 (HDD用ヘッド及びサスペンション) 分野

(パソコン、タブレット端末、パソコン用HDD向けなど)

15.0%増
(前期比)



■ 情報家電
■ 情報家電(HDD用ヘッド及びサスペンション)

※ 2013年3月期及び2014年3月期は非継続事業(データテープ事業及びブルーレイ事業)除外後の実績値

東北復興への願いを込めて 「TDKアウトリーチミニコンサート2013in松島」を開催



—TDKが企画し、楽団側と松島町とにかほ市の協力で実現したアウトリーチミニコンサート—

当社では、「創造によって文化、産業に貢献する」という社是のもと、2003年から社会貢献活動として、当社が協賛するオーケストラコンサートの楽団員によるアウトリーチミニコンサート企画を実施しています。この企画には、若い人達に世界一流のオーケストラの学団員による演奏を目の前で鑑賞する機会を設けることで、音楽に興味や親しみを持ってもらいたいという思いが込められています。

2013年11月7日には、特別企画「東北復興支援TDKアウトリーチミニコンサート2013in松島」を実施しました。宮城県松島町は、当社の草創期から関係の深い秋田県にかほ市(旧象潟町)の夫婦町です。この松島町をベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の弦楽奏者4名が訪問し、復興に取り組む被災者の方々に勇気づけるためにミニコンサートを開催しました。

当日は、ベルリン・フィルのメンバーが、東松島市の被災地を視察した後、ホールに入りモーツァルトの弦楽四重奏曲「狩」を演奏しました。さらに、にかほから松島を訪れた象潟中学校の吹奏楽団の生徒30名が復興応援歌「花は咲く」の吹奏と合唱を披露しました。続いて、ベルリン・フィルのメンバーへ訪問のお礼を込めて、地元の松島高校の吹奏楽団の生徒達が「情熱大陸」を演奏。集まった約400名の松島町の方々の心に残る演奏会となりました。

なお、この模様は後日、テレビの報道番組で大きく取り上げられ、TDKの社会貢献活動として紹介されました。

世界 & 遺産 GLOBAL TDK

天空へそびえる 世界最大のゴシック様式建築物、 ケルン大聖堂



このコーナーでは、海外のグループ企業と、その国にある世界遺産をシリーズで紹介しています。第5回目の今回はクラシック音楽の本場ドイツです。

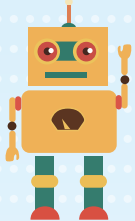
訪れた誰もが天を見上げ、「高い!」と驚きの声を発する。それがドイツの中西部、ライン川の岸辺に位置するケルン市のシンボルともいべきケルン大聖堂です。空に向かって伸びている2本の尖塔の高さは157mもあります。この高さはエジプトのピラミッドを超えるもので、ゴシック建築としては世界最大です。かつてこの地にあった聖堂が火災で焼失し、新たな大聖堂の建築が始まったのが1248年。その後300年近くの中断を挟んで1880年によりやく完成しました。外観は威容そのもの。しかも単に大きいだけでなく、人目に触れない細部に至るまで細やかな彫刻が施されています。大聖堂の内部は、柱の装飾や天井のアーチ、窓の形など、すべてが天を突き上げるような構造になっています。「天」とは神の国であり、降り注ぐ「光」は神を象徴。天高くそびえ立ち、ステンドグラスからあふれるように光が差し込むケルン大聖堂は、多くの巡礼者が集まる聖地となっています。

ドイツのグループ企業ご紹介

ドイツのエレクトロニクス産業の発展に伴って1971年に設立されたのがTDK-Lambda Germanyです。現在は主に営業所として機能しています。医療、試験・計測機器分野のお客様向けに様々な電源ソリューションを提供するとともに、強みとするドイツ国内の技術、製造、販売、物流、サービスで積み重ねた経験と、TDKのブランド力を活かして、新しいビジネスチャンスの獲得を目指しています。特に成長市場である医療、試験・計測機器、FA分野で、シェアの拡大を図っています。



▲ドイツ市場に向けて、様々な電源ソリューションを提供しているTDK-Lambda Germany GmbH



特集

ますます進化する自動車とTDK

夢の実現に向けてTDKも走り続ける!

人とクルマの優しい関係。



“ロボットカー”ってご存知ですか?

ここ10年ほどの間で、自動車には数多くの新技術が搭載され、年々自動車は進化を遂げていますが、みなさんは“ロボットカー”という名を聞いたことがありますか? それは、自動車を運転する上で基本となる「認知」「判断」「操作」を自律的に行い、人間のミスをかばってくれる、そんな機能を備えた車を言います。すでに普及しているカーナビシステムがわかりやすい事例ですが、他にもこんな機能があります。

自動緊急ブレーキシステム

コンピュータが自動的にブレーキを操作し他の車や障害物との衝突を回避

オートクルーズシステム

前を走っている車との距離を一定に保って自動走行

そして究極的には、新技術や情報通信、そして道路のインフラ整備を組み合わせる自律走行する、**自走車(自動で運転走行する車)**の実現も近いと言われています。



“ロボットカー”のメリットとは?

では、ロボットカーが私たちにもたらすメリットは何でしょうか? 1つめは「交通事故の大幅な低減」、2つめは「環境負荷の軽減」です。

① 交通事故の大幅な低減

交通事故の低減は、現代社会における継続的な課題です。ロボットカーは、自動車自体が運転の状態と外部の状況をセンサで認知し、ECU(Electronic Control Unit)で判断、そして運転者の操作をサポートします。すでに、海外では約50万kmの無事故走行を達成したというニュースもあります。

② 環境負荷の軽減

エレクトロニクス制御によって、走行状況に応じて常に燃費の良い速度で走り続けることが可能になるため、大気汚染や石油資源消費の問題にも大きな改善が望めます。また、制御技術の発展が、ガソリン車からハイブリッド車(HEV)や電気自動車(EV)への移行も促進します。

1 認知

車が運転者に必要な情報を事前に知らせる!

- 視界は十分に確保できているか?
- 前方/後方に障害物や歩行者は?
- スピードは適切か? ...etc.

認知をサポートする装置

- モニターカメラ ■ 各種センサ類
- GPS、デジタル地図 ...etc.

予測



3 操作

車が自律的にアクションして安全・快適運転をサポート!

- アクセルペダルの踏み込み量を増減する
- ステアリングホイールの角度を維持/制御する
- ブレーキペダルを踏み込む/離す...etc.

操作をサポートする装置

- 自動ブレーキ、誤発進抑制機構、横滑り防止装置 ...etc.

フィードバック

それが“ロボットカー”

「認知」「判断」「操作」のサイクルを自動車が運転者と一緒になって回し、ヒューマンエラーを減らして安全運転・安全走行を実現します。

2 判断

車が運転者に危険かどうか判断する情報を知らせる!

- 危険は迫っていないか?
- 加速もしくは減速をするべきか?
- カーブや交差点を曲がるか? 曲がらないか?...etc.

判断をサポートする装置

- 演算処理装置 (コンピュータ) ■ 解析用ソフトウェア
- 制御用ソフトウェア ...etc.

指示

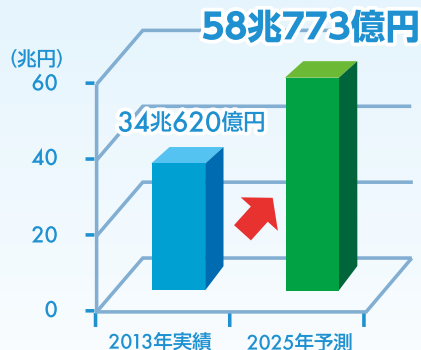
クルマ1台に電子部品が1万個超搭載!



自動車の進化を支えるもの、それは電装化です!

70年代後半から、燃費・排気ガス規制への対応のためにエンジン回りから本格化した**電装化 (エレクトロニクス化)**は、安全・安心、快適性、そして環境対策の追求も加わってさらに広がり、現在のような進化した自動車が実現しました。これまで、油圧・空気圧やカム (歯車やベルト) 構造であったものが、ECUというエレクトロニクス制御になり、今では自動車全体を車載LANで結び、コンピュータが管理していると言っても過言ではありません。自動車に搭載される電子部品の数は1台当たり1万個を超え、今後も増加するものとみられています。まさに自動車は電子部品の集合体と言えます。

今後も成長が見込まれる車載製品市場



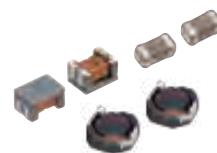
※株式会社富士キメラ総研の「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査2014」からTDKで作成

自動車の進化を支えるTDK

TDKは車載用電子部品のパイオニアです。高い信頼性が求められる車載向けに、これまでもさまざまな電子部品を提供してきました。TDKでは、今後もECU向けなどに高い信頼性を誇る高温保証タイプチップコンデンサ、インダクタ、コモンモードフィルタ、センサなどの各種部品の開発と製品ラインアップを強化してまいります。

また、TDKの強みである**素材技術**をフルに活かして開発したレアアースフリーの磁石や、HDD用磁気ヘッドで蓄積した**薄膜技術**を応用したTMR角度センサ、燃費向上などに使われる電流センサ、温度センサなどの開発・拡販にも注力しています。さらに、TDK独自の高性能フェライト材を採用して開発した小型・軽量・高効率の車載用DC-DCコンバータも自動車メーカーのニーズに対応して改良を加速しています。今後も、こうしたロボットカーの世界の実現を追求しながら、自動車の**「安全」「省エネ」「快適」**に貢献してまいります。

ECU向け車載用チップコンデンサ及びインダクタ



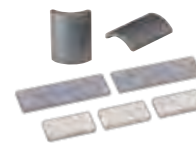
車載用DC-DCコンバータ



車載用センサ



フェライトマグネット／ネオジムマグネット



株主メモ

● 株式に関するお問合せ先

証券会社等にて株式をお持ちの場合

○ 配当金の受取方法の指定、変更	お取引のある証券会社等
○ 単元未満株式の買取・買増請求	
○ 住所変更、名義変更等	
未払配当金の照会、支払い	下記の株主名簿管理人

特別口座にて株式をお持ちの場合

各種手続き等	下記の特別口座管理機関
--------	-------------

* 特別口座の方は、証券会社等に一般口座を開設し、株式を振替えることをお勧めします。
(特別口座とは、2008年12月末までにふり(証券保管振替機構)に株券をお預けにならなかった株主様の株式を、当社がお預かりし一旦管理させていただいている口座のことです)

株主名簿管理人及び特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先及び電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各支店

〈お知らせコーナー〉

- **配当金の受取方法について：**
配当金はお受取り忘れのない、安心、確実、スピーディーな、口座振込でのお受取りをお勧めします！
- **単元未満株式の買取・買増請求について：**
単元未満株式の買取・買増請求に係る当社に対する手数料を2012年4月1日から無料とさせていただきますので、是非ご利用ください！
(但し、特別口座の株主様を除き、証券会社等に対する手数料が別途必要となる場合がありますので、ご注意ください)
- **今回お送りした「配当金計算書」について：**
毎年の確定申告を行う際、添付書類としてご使用いただくことができますので、大切に保管ください！

● 株式の状況

基本情報 (2014年3月31日現在)

上場証券取引所	東京(証券コード:6762)
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末:毎年3月31日、中間:毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日(そのほか臨時に必要があるときはあらかじめ公告いたします)
定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告(当社のホームページ http://www.tdk.co.jp/ に掲載いたします)
1単元の株式数	100株

● 役員の状況

取締役、監査役及び執行役員 (2014年6月27日現在)

取締役(*印は社外取締役)	執行役員	執行役員
代表取締役 上釜 健宏	社 長 上釜 健宏	執行役員 桃塚 高和
取 締 役 小林 敦夫	専務執行役員 小林 敦夫	執行役員 永田 充
取 締 役 植村 博之	専務執行役員 植村 博之	執行役員 Joachim Zichlarz (ヨアヒム・ツィヒラルツ)
取 締 役 米山 淳二	常務執行役員 逢坂 清治	執行役員 Joachim Thiele (ヨアヒム・ティール)
取 締 役 梁瀬 行雄*	常務執行役員 吉原 信也	執行役員 今本 敬一
取 締 役 澄田 誠*	常務執行役員 米山 淳二	執行役員 石黒 成直(新任)
取 締 役 吉田 和正*(新任)	常務執行役員 松岡 薫	執行役員 末木 悟(新任)
	常務執行役員 齋藤 昇	
	常務執行役員 Robin Zeng (ロビン・ツェン)	
監査役(**印は社外監査役)		
常勤監査役 四居 治		
常勤監査役 原 登		
監 査 役 中本 攻**		
監 査 役 増田 宏一**		
監 査 役 八木 和則**		

● IR年間スケジュール ▶ <http://www.tdk.co.jp/ir/>

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
4月	5月	6月	7月
8月	9月	10月	11月
12月	1月	2月	3月
通期決算発表	第1四半期決算発表	第2四半期決算発表	第3四半期決算発表
招集通知送付	株主総会開催 期末配当金支払い開始	中間配当株主確定	中間配当金支払い開始
			期末配当株主確定

いつも本誌、株主通信「TDK TODAY」をご愛読いただきまして、誠にありがとうございます。今回は特集に自動車を取り上げてみましたが、いかがでしたでしょうか。今後も株主の皆様、楽しみに手に取っていただける様な誌面作りに努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。七夕を迎える季節となりました。末筆ながら、株主の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



TDK株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目9番1号
<http://www.tdk.co.jp/>



この冊子は植物油インクを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



当社は、世界的に権威のある社会的責任投資(SRI)の指標である、DJSI Asia Pacificに、今年も選定されました。